

東京交通新聞 2009 年 8 月 31 日

<ユニタク設計 類似車の試験方法論議>

国交省バリアフリー バス・タクシー検討 WG

国土交通省の「地域ニーズに応じたバス・タクシーバリアフリー車両開発検討会」・タクシーワーキンググループ（WG、主査＝鎌田実・東京大学高齢社会総合研究機構長）の会合が 26 日開かれ、ユニバーサルデザインタクシーの車両設計に向けた類似車の公道走行試験の方法について議論した。

トヨタの「ポルテ」などを使い、坂道や Y 字路、病院の構内を重点に乗降口の横乗り、後乗り双方の利点・欠点を洗い出しする方針を確認した。来月中旬ごろ、場所は未定。

東京モーターショー（10 月 23 日～11 月 4 日）で試験の様態を映像で流すとともに、日産の小型バン「NV200」の実物と、2 月に製作、一部の関係者に披露されたモックアップ（車体模型）のパネルを展示し、一般にアピールすることも決めた。

バス WG（鎌田主査）の会合も同日開催。当面の課題として、路線バス車内後方の最前列座席を 1 人掛けに改良し、朝夕ラッシュ時の乗客の積み残し解消を技術面でサポートする必要性を申し合わせた。